

中部大学民族資料博物館

年報 第 6 号

---

2016

中部大学民族資料博物館

MUSEUM OF ETHNOLOGY ART CHUBU UNIVERSITY



## 巻頭言

平成 28 年度は、開館以後に新規で受入をした寄贈資料のうち、まとまった量の提供を受けた彫刻資料と衣料の資料の整理作業がおおよそ終了し、公開へつなげた時期となった。5 月には、100 点を上回るアフリカ地域の木彫仮面の一連の資料を、常設展示の一部の資料と配置換えすることで、一角にまとめて披露するコーナー展示を公開した。資料の収集にあたった松浦晃一郎先生には、展示を記念して基調講演いただき、また関連のアフリカ地域研究に携わる教員らによる研究テーマ紹介を含むシンポジウムを同時に開催し、学内外の多くの方々に参加いただくことで、新たな公開資料を周知する機会となった。

また、500 点を越える民族衣装に関連する衣料は、ここ数年間にわたって人員と時間を費やした結果、基礎段階の一覧作成の目処がようやくつき、経過報告として資料の一部を一昨年からの常設展示の中で数点ずつ紹介する試みも行った。

夏季から冬季にかけては、本学教員の研究成果発表に関連する展示を、常設展示空間の一部を利用して連続して開催することとなったため、これまで館で企画開催してきた夏季のテーマ別の常設コレクション展示は急遽休止することとなった。代わりに、まずエジプトとシリア考古学調査の研究活動について、他館における記録資料や所蔵資料をもとに、企画した委員により展示した。次に名古屋大学で長年におよぶ研究をされた客員教授により、アフリカとユーラシア大陸における牧畜文化の様相に関する調査研究活動についてパネルと関連資料の展示が行われた。これらの 2 種の研究紹介の展示期間内では、それぞれギャラリートークが実施され、一般の方々が専門研究者の話を身近で実物資料を鑑賞しながら聴講することができ、テーマに高い関心を寄せる人びとにとっては有意義な時間として楽しんでいただけたと思われる。

開館から 5 年が過ぎ、企画催事と旧資料室からひきついで収蔵資料の整理、施設整備のための調査活動等を同時並行して行ってきたなかで、整理作業については初期段階ではあるものの、概要の確認作業が終了の見込みである。今後は、大学博物館として、よりよく学生利用に活用できるよう、学術調査の補充や教材資料として工夫し、内容の充実を一層求めていくための方策を関係者で案を出し合い練り上げていく、次の段階へ進む必要があるだろう。焦ることなく、道程をみつめ、一歩ずつ改善に努めていきたいと思う。

今後も多くの方々の御支援と御指導を切にお願いするしだいである。



中部大学民族資料博物館  
年報  
2016

目次

巻頭言（平成 28 年度 博物館事業概要）

1 組織・施設

博物館の組織・人員	2
運営委員会	3
収蔵資料点数	4
施設整備概要	5

2 博物館活動報告

開館日数・入館者統計	8
団体見学	10
会議・出張	11
展示・講演・講座	13
出版事業	26
資料収集・保存等	27
調査研究活動	28
教育普及に関する活動	29
広報活動	33

（別表） 民族資料博物館 平成 28 年度展示・催事一覧	36
------------------------------	----



# 1 組織・施設

## 民族資料博物館の組織・人員

館長 和崎 春日（国際関係学部教授）

図書館事務部長 稲ヶ部正幸（専任事務員）

副館長 宇治谷 恵（准専任事務員・学芸員兼務）

原田 千夏子（専任事務員・学芸員兼務）

猪塚 里香（非常勤嘱託 B 平成 28 年 4 月～）

中川 智美（非常勤嘱託 B 平成 27 年 4 月～）

佐藤 尚子（平成 24 年 10 月～）

宮沢 桂子（平成 28 年 4 月～）



運営委員会（平成 28 年度）

民族資料博物館運営委員会

委員長	民族資料博物館長	和崎 春日
委員	民族資料博物館副館長	宇治谷 恵
	国際文化学科 教授	杓谷 茂樹
	国際文化学科 教授	中山 紀子
	国際文化学科 教授	財部 香枝
	国際文化学科 教授	中野 智章
	中国語中国関係学科 教授	澁谷 鎮明
	中国語中国関係学科 講師	宗 婷婷
	人文学部日本語日本文化学科 教授	嘉原 優子
	情報工学科 准教授	鈴木 裕利
	幼児教育学科 准教授	采翠 真澄
	人文学部共通教育学科 准教授	西山 伸一
	人文学部共通教育学科 講師	大橋 岳
	管財部長	小谷 高秋
	管財部次長	吉崎 真琴
	図書館事務部長	稲ヶ部正幸
外部専門委員	川上 實（愛知県立芸術大学名誉教授・元学長）	
	石毛 直道（国立民族学博物館名誉教授・元館長）	
	下川 辰彦（日本美術院特待）	
	前田 富士男（中部大学客員教授・慶応義塾大学名誉教授）	
アドバイザー	名誉教授	畑中 幸子
事務局	民族資料博物館	原田 千夏子

収蔵資料点数一覧

2017年3月31日現在

地 域		点数	計
シルクロード	コイン	616	719
	その他	103	
オセアニア	オセアニア	479	479 (76)
アジア	西アジア	74	880 (65)
	東アジア	531	
	東南アジア	200	
	南アジア	75	
アメリカ	アメリカ	259	259 (24)
アフリカ	アフリカ	96	96 (8)
ヨーロッパ	ヨーロッパ	159	159 (6)
その他	その他	1	1
小 計			2,593 (179)
その他：コレクション関連資料			1,259 (22)
合 計			3,852 (201)

( ) は、写真・映像資料数。書籍および参考資料は除く。

収蔵資料のデータベース化に伴い、資料の区分け等を見直したため、前年の収蔵資料点数から若干の変動がある。

## 施設整備概要

- 1 常設展示室の一部資料の配置換え  
地域研究エリアのうち、アフリカ地域の一部資料を入れ替え、近年、寄贈を受けて整理を終えた仮面資料等、約 110 点と、関連のパネル資料等を加えた。
  
- 2 防虫管理対応  
常設展示資料について、目視観察を続け、虫害の発生等に気づいた点を記録した。  
また収納中の資料と合わせて順に春季から夏季期間を中心に専用の防虫剤を設置した。
  
- 3 収蔵資料のデータベース化計画について（継続事項）  
管財部と博物館の合同利用できる分類検索項目を作成し、夏季より業者によるデータ構成作業に進み、現在作業中である。将来的には学生利用を目的とし、より多くの分野に応用できるキーワードを設定する工夫を検討している。  
あわせて大学内での設置環境の整備についても並行して関連部署と連携し実施にむけた諸手続きを検討している。



## 2 博物館活動報告

## 開館日数・入館者統計

(平成 28 年度 入館者数 月別表)

月	平成 28 年度			(参考:平成 27 年度)	
	開館日数	入館者数	備 考 ( 主な出来事・行事 )	開館日数	入館者数
4 月	22	561	特別講座作品展示(3/23～4/7)、春のオープンキャンパス(16 日)、高校生による大学見学(4 件)、入学式	23	774
5 月	20	1,088	アフリカ資料公開記念式典・シンポジウム(10 日)、父母との集い(28 日)、高校生による大学見学(12 件)	20	1,147
6 月	24	933	父母との集い(18 日)、中学生・高校生による大学見学(14 件)	24	1,154
7 月	21	524	夏季展示(7/4～8/7)、国際関係学部オープンキャンパス(9 日)、夏季展示ギャラリートーク第一回目(12 日)、高校生による大学見学(4 件)	24	535
8 月	17	503	夏のオープンキャンパス(5～7 日)、夏季展示ギャラリートーク第二回目(2 日)、高校生による大学見学(1 件)、他館研究者調査交流(1 件)	9	442
9 月	22	211	高校生による大学見学(2 件)	10	180
10 月	23	817	秋のオープンキャンパス(15 日)、図書館職員研修会内見学(21 日)、父母との集い(29～30 日)、高校生、海外研修生による大学見学(10 件)、他大学職員見学(1 件)	23	888
11 月	22	424	CAAC 連続講座内見学(11 日)、高校音楽教員研究会内見学(30 日)、高校生による大学見学(5 件)	22	1,050
12 月	16	345	期間展示(12/5～3/8)、研究支援実務者連絡会(2 日)、高校生による大学見学(5 件)	16	621
1 月	18	238	高校生による大学見学(2 件)	18	98
2 月	20	77	小学生による見学(10 日)	20	51
3 月	9	389	学位記授与式(23 日)、高校生による大学見学(2 件)	23	478
計	234	6,110		232	7,398

平成 28 年度の開館日は、234 日、入館者数の合計は 6,110 人である。この他、学内の別会場における催事（アフリカ資料公開記念シンポジウム：248 人、通年にわたり開催する特別講座：全 26 回延べ 416 人）の参加者数延べ 664 人をあわせると、当館の平成 28 年度の催事参加者は合計で延べ 6,774 人となる。例年どおり、大学催事への参加を積極的に試み、土日祝日における催事開催時は特別に開館して対応をとった。特別開館した催事は次のとおりである。

平成 28 年度 大学催事に特別開館対応をした主な催事

総件数： 17 件 (23 日間：計 1,182 人) (参考：平成 27 年度 24 件、1,479 人)

内訳：

- 1) 4 月 16 日 (土) 春のオープンキャンパス (97)
- 2) 4 月 29 日 (金) 昭和の日(授業日) (4)
- 3) 5 月 28 日 (土) 父母との集い (28)
- 4) 6 月 4 日 (土) 中部大学第一高等学校 PTA 見学 (110)
- 5) 6 月 18 日 (土) 父母との集い (59)
- 6) 7 月 9 日 (土) 国際関係学部 夏のオープンキャンパス (11)
- 7) 8 月 5～7 日 (金～日) 夏のオープンキャンパス (288)
- 8) 8 月 27 日 (土) 春日丘中学校・高校・PTA 見学 (116)
- 9) 9 月 19 日 (月) 敬老の日 (授業日) (4)
- 10) 9 月 22 日 (木) 秋分の日 (授業日) (4)
- 11) 10 月 10 日 (月) 体育の日 (授業日) (7)
- 12) 10 月 15 日 (土) 秋のオープンキャンパス (55)
- 13) 10 月 29～30 日 (土～日) 父母との集い (177)
- 14) 11 月 2 日 (水)～4 日 (木) 大学祭 (文化の日) (104)
- 15) 11 月 23 日 (水・勤労感謝の日：振替休日) (授業日) (5)
- 16) 12 月 3 日 (土) 春日丘高等学校 PTA 見学 (90)
- 17) 12 月 10～11 日 (土～日) 期間展示関連シンポジウム開催期間 (23)

<授業利用>

- ・4 月 12 日 「スタートアップセミナー」 (17)
- ・4 月 26 日 「博物館経営論」 (50)
- ・6 月 8 日 「スタートアップセミナー」 (50)
- ・6 月 9 日 「国際関係学部スタートアップセミナー」 (100)
- ・7 月 5 日 「博物館経営論」 (50)
- ・9 月 29 日 「国際基礎演習」 (80)
- ・10 月 6 日 「国際基礎演習」 (80)
- ・11 月 17 日 「博物館資料保存論」 (48)
- ・1 月 12 日 「芸術の世界」 (34)

## 団体見学

入館者数の内訳では、高校の大学施設見学としての団体見学である。受入件数は、61件、見学総数は合計3,026人となり、昨年度に比べ908人の減少となった。

この他、地域の学内学生が主体となって行う児童対象や、市民グループの講座内での見学、高校と大学の連携授業内での見学等において、見学授業のスタイルで展示室が利用される件数が昨年に引き続き増えた。大学博物館としての認知度をあげ、地域に開かれた教育施設として活動していきたい。

### 平成28年度 高校見学受入状況

受入件数 計61件、合計人数3,026人 (参考：前年度 72件 計3,934人)

### 平成28年度 その他のグループ見学等の受入状況

#### <団体見学・交流等>

- 6月23日 愛知シュタイナー学園 中学生 見学授業(地理学習)(7)
- 7月29日 嘉興学院大学(中国)(25)
- 8月23日 東京国立博物館(2)
- 10月3日 東京国立博物館 資料調査(1)
- 10月4日 JICA 海外研修者(18)
- 10月21日 平成28年度CAN私立大学コンソーシアム図書館職員研修会(12)
- 11月11日 CAAC 連続講座「旅と文学」内における見学会(21)
- 11月30日 愛知県高等学校音楽教育研究会(39)
- 12月2日 2016年度 第2回 中部研究支援実務者連絡会(40)
- 2月10日 春日井市立北城小学校 大学施設見学内 鑑賞授業(28)



## 会議・出張

### 会議

#### 運営委員会

##### 第1回（12月20日）

- 議事
- 1 新委員紹介
  - 2 「博物館相当施設」指定後の改善計画報告について
  - 3 平成27年度 催事報告について  
平成27年度 開館日数、入館者数について
  - 4 平成27年度 決算報告について
  - 5 平成28年度 予算について
  - 6 平成28年度 催事について
  - 7 博物館・管財部合同データベース化計画の経過と予定について
  - 8 平成27年度 寄贈資料について
- その他

##### 第2回（3月31日）

- 議事
- 1 総括
  - 2 今後の業務について
- その他

### 専門部会等

##### 第1回（7月22日）

- 議事 管財部・民族資料博物館 合同使用 収蔵資料管理用のデータベース設計計画について（説明会）
- ・主旨
  - ・テスト画面の流れ
  - ・特色
  - ・検索事例の紹介

##### 第2回（3月28日）

- 議事 管財部・民族資料博物館 合同使用 収蔵資料管理用のデータベース構築計画について（平成28年度 経過確認）

## 出張

- 5月14日 研究会「アート・アーカイブのいま」出席（東京文化財研究所）（原田）
- 6月11～12日 アートドキュメンテーション学会参加（奈良国立博物館）（原田）
- 6月26～27日 夏季企画展示の資料借用打合せ（古代オリエント博物館）（宇治谷）
- 7月28日 東海地区博物館協議会 総会、研修会参加  
（大垣市奥の細道むすびの地記念館）（宇治谷）
- 8月8～9日 夏季企画展示借用資料返却、輸送、開梱、点検等の立会い及び展示等の調査（古代オリエント博物館、福島県文化財センター白河館）（宇治谷）
- 11月17～18日 公益財団法人 文化財虫菌害研究所主催「文化財 IPM 実践のための研修会」参加（新宿歴史博物館）（原田）
- 12月9～10日 全国大学博物館学講座協議会西日本部会参加（京都外国語大学）  
（宇治谷）
- 3月8日 平成28年度愛知県博物館協会部門研修会参加（豊田市美術館）（原田）
- 3月7～8日 展示等の打ち合わせ（伊勢市参宮街道資料館、国立民族学博物館）  
（宇治谷）

## 展示・講演・講座

### ・常設展示

アフリカ地域に関連する木彫資料と関連のパネル資料を加え、一部資料の展示換えを行った。

### ・企画催事 1（展示）

春季は、5月に常設展示室の一部資料を入れ替え、アフリカ地域の木彫仮面 110 点と、関連のパネル資料を加えた。公開初日には、記念の関連式典を開催するとともに、木彫資料の収集者で寄贈者の松浦晃一郎先生による基調講演とアフリカ関連の研究者らによる発表を行った。

夏季は、8月から9月にかけて、東京の古代オリエント博物館蔵の発掘資料とパネル資料を借用し、発掘調査に関わった本学の教員による発表展示を開催した。

冬季は、学内教員による、ユーラシア大陸とアフリカに関する研究成果発表展示を12月から3月まで開催した。

冬季から春季にかけて、当館主催で開催している「特別講座（古典絵画）」の受講生の成果発表展示は展示室利用の事情により、新年度開催に見送ることとなった。

### ・企画催事 2（講演）

春季にアフリカ資料公開記念シンポジウムとして開催した。

### ・企画催事 3（講座）

一般対象の実技講座（特別講座：古典絵画）を毎年継続して開催している。博物館における調査研究事業の一環として開館当初から開講している催事で、受講は定員を上回る希望者がある。通年制をとることで、受講生の制作意欲が持続し、作品の完成度へつながっているようである。

平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日間の展示・催事は次のとおりである。

### ・展示

催事名：アフリカ資料（松浦コレクション）公開、および関連記念式典

会場：民族資料博物館展示室

日時：2016 年 5 月 10 日（火）

## アフリカ木彫資料の公開について

アフリカの仮面や木彫は、ご覧の通り、極端な形にデフォルメされ発明された造形であるにもかかわらず、精巧な写実性が併存しています。これがアフリカ工芸文化の奥深さであり、ピカソやミロなどが真似ようとした変形抽象化と具象化の同時発現の力です。ナイジェリア・ムムイエ民族の仮面の極度に長い首もそうです。ナイジェリア・イボ民族の、顔・首・胴体があれば胴体の部分も顔の仮面にしてしまう造形力がそうです。アフリカ社会のイメージーションは、クリエーションなのです。額が前面に突き出た仮面は、ファン民族に特色的な様式です。展示に示されたガボンと赤道ギニアという、ファン仮面の2カ国にまたがる所属は、植民地分割によってファン民族の日常生活が分断されたことを意味しています。同時に、その植民地化の苦難を乗り越えるアフリカ民衆の生活文化の力が、仮面をとおして矛盾を笑いと祈りに変えて前面化します。

文化財という歴史伝統性を担ったものでも、現代との交渉が必ずあります。コートジヴォワール・バウレ民族の仮面は鉾山帽をかぶっています。グロ民族の仮面は、頭に子供と自動車載せています。フランスの警察官・軍隊の帽子や勲章を、民族の木彫が身につけています。

ガーナ・アシャンティ民族の4人すくみの鍋置き・カゴ置きも、現代技法と伝統表現の融合でしょう。

文化財とは、静態として固定した形ですと伝承されるものではなく、むしろ本質的に今と激しく呼吸し合うものです。そうだからこそ、消えることなく次代に生きるのです。

当館は、県内の大学では4校しかない「博物館相当施設」として認可された大学博物館です。このたび加わることとなった松浦コレクションとともに、今後はますます学内外に広く活用され発展していくよう努力を惜しまないことをここに誓うものです。(和崎)



アフリカ資料公開式典



アフリカ地域展示風景

催事名：夏季企画展示「エジプトの沙漠からオロンテス河畔まで 中部大学の教員が関わるエジプト、シリアにおける考古学調査」

会場：民族資料博物館 シルクロード室（一部）、図書館1階エントランス

内容：学内教員により、エジプトおよびシリアの遺跡調査に関する考古学調査について、関連資料やパネルなどを展示した。

期間：2016年7月4日（月）～8月7日（日）

企画：中野智章（国際関係学部教授・民族資料博物館運営委員）

西山伸一（人文学部共通教育科准教授・民族資料博物館運営委員）

協力：公益財団法人 古代オリエント博物館

入館者数：871人

「エジプトの沙漠からオロンテス河畔まで」を終えて

テレビや新聞で目にするシリア難民の様子や内線の悲惨さに関しては、発生してから5年近い歳月が経過したこともあってか、悲しいことにそれがもはや耳慣れた現実となっている感がある点は否めない。死者は数十万、難民は200万人をはるかに超えるとされる。普段の講義でシリアを含むいわゆる「中東」（ただし、この用語はヨーロッパ側から見た際の地域名称で、現在では「西アジア・北アフリカ」と単に地理上の位置で示すことが多い）とされる地域を取り上げる場合、学生の反応はIS（ISILと呼ばれる、イラクやシリアを中心にテロを行うイスラーム過激派組織）のイメージが強烈的なためか「怖い」の一言で片付けられがちで、背景に、古代から連なるどのような歴史や文化などの流れが存在したのかを伝える必要性が今まさに高まっていることは、最近とみに感じていたところであった。

今回の企画展では、そうした危惧やパルミラ遺跡などの世界遺産が大きな被害を受けている現状なども踏まえ、シリアをフィールドとする同僚の西山伸一氏と、エジプトをフィールドとする筆者がそれぞれ考古学調査を行った遺跡について紹介し、これら地域が現代の我々の生活にも通じるさまざまな文明の発祥の地であり、我が国とも深い関係を有していること、また、現地の人びとの暮らしぶりなどにもふれながら、この地域の持つさまざまな豊かさを見学者の方々に感じて頂けるよう展示を構成した次第である。

展示にあたっては、東京の古代オリエン

**エジプトの沙漠からオロンテス河畔まで**  
中部大学の教員が関わるエジプト、シリアにおける  
考古学調査【2016年度夏季企画展】

エジプトやシリアにおける  
調査の様子や出土品を展示  
ギャラリートークも開催!

7月12日(火)シリア(西山伸一)  
8月2日(火)エジプト(中野智章)  
両日とも13時～

会期：2016年7月4日(月)～8月7日(日) ※土・日・祝日を除く。7月9日、8月6日～7日は閉館  
主催・会場：中部大学民族資料博物館 協力：公益財団法人 古代オリエント博物館 入館料：無料

中部大学民族資料博物館  
MUSEUM OF ETHNOLOGY AND ANTHROPOLOGY, CHUO UNIVERSITY  
〒466-8601 名古屋市中区千石1-1-1 電話：052-730-2000 FAX：052-730-2001 E-mail: museum@chuo.ac.jp

夏季企画展示チラシ

ト博物館に協力を仰ぎ、数は30点ほどとやや少ないものの、東海地区の大学ではおそらく異色の、シリアやエジプトで実際に発見された遺物を公開する機会を得た。また、調査の様子や美しい風景を写したパネルなどを通じ、過去と現在との対比に思いをはせた方々も多かったのではないかと感じている。幸い、学内だけでなく学外からも多くの方々にご来館を頂くことが叶ったが、今後ともこうした活動を継続していくことが重要と考えている。(中野)



夏季企画展示風景

エジプト地域展示担当：中野智章（国際関係学部教授・民族資料博物館運営委員）

#### 「シリア考古学関係の展示について」

今回の企画展示のうちシリア考古学関係の展示資料については、古代オリエント博物館（東京・池袋）がシリア・アラブ共和国で実施した発掘調査の出土資料やそれに関連するパネルが中心になっています。出土資料は、私も参加したシリア北西部イドリブ県のテル・マストゥーマ遺跡からのものです。この遺跡は、1980年から1995年にかけて計8回の発掘調査が行われました。ここはいまから約2800年前の「鉄器時代」の村落跡になります。この遺跡の重要性は、なによりも当時の村落がこれまでにない規模で広範囲に発掘され、当時の一般の人々の生活が復元できることにあります。

マストゥーマ遺跡の位置するイドリブ県は、「緑のイドリブ」ともいわれ、シリア国内有数のオリーブの生産地です。見渡すばかりのオリーブの木々が広がる丘陵地帯での発掘調査は、「中東＝沙漠」という固定観念を大転換させる経験を私に与えてくれました。私は、このマストゥーマ遺跡での1994年の調査をかわきりに、内戦直前の2010年までほぼ毎年シリアで考古学調査にかかわることになりました。

2011年に始まったシリア内戦は、本当に残念なことですが、過去5年間で25万人以上の死者、400万人以上の難民を出し、過去に類例を見ない勢いで影響を世界に及ぼしています。私の友人や関係者の中にも命を落とした人々がいます。一日も早い内戦の終結を望まずにはいられません。

この5年間でシリアを含む西アジアでの考古学調査の数は、治安の不安から大きく減退したのは事実です。かつてシリアは6つの日本調査団が活躍し、西アジアにおいて最も盛んに日本人の考古学調査が行われていた場所でした。調査は、単に現地で遺跡を発掘するだけでなく、現地の人々といっしょに働くことで、お互いに文化の違いを認め、より良い人間関係を築き上げるといういわば民間レベルの国際交流ともいえます。今回、日本のシリア調査の成果の一旦をご紹介しますことで、古代西アジアの人々の生活を理解していた

だくとともに、現在内戦で苦しむシリアの人々の心に思いをはせることを願っています。  
(西山)

シリア地域展示担当：西山伸一（人文学部共通教育科准教授・民族資料博物館運営委員）

催事名：期間展示「アフロ・ユーラシア 内陸乾燥地文明展 黒アフリカ・イスラーム文明から考える」

会場：民族資料博物館 常設展示室（部分）

内容：本学の教員が中心となって研究をすすめてきた、世界の大砂漠が分布するアフロ・ユーラシア大陸の中央乾燥地域に繰り広げられた文明について、その研究成果の一部として、これまで収集した関連資料を用いて成果発表展示をした。

期間：2016年12月5日（月）～2017年3月8日（水）

企画：嶋田義仁（中部大学客員教授）

入館者数：767人

多数の研究分担者とともに、8年間アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明研究に取り組んできた。科学研究費補助金（S）（2009-2013）、同（A）（2014-2016）がその支えであった。その出発点は、サハラ砂漠の南に接した西アフリカのサーヘ・スーダンとよばれる乾燥草原地帯における文化の研究であった。この地域の文化的特徴は、サハラ砂漠横断のサハラ交易によって、10世紀ころから、イスラーム商業経済がはじまり、11世紀からはイスラーム王国やイスラーム交易都市が成立するという文明展開がみられたことだ（拙著『黒アフリカ・イスラーム文明論』創成社）。

なにゆえに黒アフリカの不毛そうな乾燥地域に、文明が成立しえたのか。

その理由は、牧畜文化の文明形成力だった。なぜなら、大型家畜は、近代以前におけるすぐれた移動・運搬手段であり、軍事・政治手段でもあった。それゆえ牧畜文化が分布する乾燥地域に文明が形成されやすかった。

アフロ・ユーラシア大陸中央部にはその乾燥地域が、サハラ砂漠から、中東、中央アジア、西域、モンゴルへと、広大な範囲にわたってひろがる。初期中期の人類文明史は、このアフロ・ユーラシア内陸乾燥地域を舞台に繰り広げられたのではないのか。アジア・モン

**アフロ・ユーラシア  
内陸乾燥地文明展**  
黒アフリカ・イスラーム文明から考える

世界システムとしてのアフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明  
アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明とは、アフロ・ユーラシア大陸の中央部の乾燥地帯を舞台に繰り広げられた文明だ。ここでは、アフロ・ユーラシア大陸の乾燥地帯から、黒アフリカのタカラコタン砂漠やサハラ砂漠まで、世界の大砂漠が分布する。その乾燥地帯こそが、人類文明形成の中心地だった。なぜならここには、多量のオアシスと豊富な水が降り注ぎ、それは農耕文化の発展の基盤として生きてきた。また、ここには、牧畜文化が根付いてきた。ラクダやウナ、白牛などの大型家畜が、交易の経路には重要な役割を果たした。大型家畜はすぐれた軍事・政治活動の手段でもあった。その結果、乾燥地帯には巨大な帝国が形成され、諸国は国際交易によって繁栄した。牧畜文化と商業文化がたがって世界システムが、アフロ・ユーラシア内陸乾燥地帯に形成された。このシステムによって、遠く離れた地域と異なる民族間の交流が盛んになり、人類文明が繁栄した。最終的にイスラーム、インド教、仏教という世界宗教も、その交流を促進する宗教思想として生まれた。仏教も、キリスト教も、イスラーム教も世界宗教の発展の契機となった。 嶋田義仁 企画

アフロ・ユーラシア内陸乾燥地帯文明研究会代表、中部大学客員教授

2016年12月5日～2017年3月8日  
中部大学民族資料博物館（副都心高尾記念館2階）  
二・日・祝日休館 入場無料  
開館時間 9:30～16:30（最終入館 16時）

●期間限定企画展（無料）  
アフロ・ユーラシア内陸乾燥地帯文明の歴史動向  
12月10日（13時～17時）、11日（10時～15時）  
※ 中部大学 リサーチセンター2階大会議室

アフロ・ユーラシア内陸乾燥地帯文明研究会  
Association for Afro-Eurasian Inland Arid Land Civilizations

中部大学民族資料博物館  
MUSEUM OF ETHNOLOGY ART CHUBU UNIVERSITY  
〒500-8702 岐阜県岐阜市高尾1-1-1 電話 057-241-1111 FAX 057-241-1112

期間展示チラシ

スーン文化とヨーロッパの西岸海洋性文化はアフロ・ユーラシアの2大森林文化であるが、それは大陸の辺縁部に位置し、その文明化は先進乾燥地文明の刺激で成し遂げられたのではないだろうか（拙著『砂漠と文明』岩波書店）。

こうした問題意識のもと、アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明中心に人類文明史を再構築しようという共同研究をこの8年続けてきた。この共同研究はさらに4年間継続可能になった。アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明研究は12年間におよぶ。それは、わが国人文社会科学研究分野近年の最大プロジェクトだと言ってもよい。その成果の一端を本展でしめすことができたのは、幸いであった。（嶋田）

担当：嶋田義仁（中部大学客員教授）

### ・講演

催事名：アフリカ資料公開記念（松浦コレクション）シンポジウム

テーマ：「アフリカへのまなざし・・・広大な自然と多彩な文化」

パネリスト：松浦晃一郎（学校法人中部大学 学事顧問）

青木澄夫（国際関係学部教授）

大橋 岳（人文学部共通教育科講師）

佐藤尚子（民族資料博物館）

古澤礼太（国際ESDセンター、中部高等学術研究所准教授）

嶋田義仁（中部大学客員教授）

和崎春日（民族資料博物館長、国際関係学部教授）

※掲載は発表順

日時：2016年5月10日（火）

会場：不言実行館1階アクティブホール

参加者数：248人



アフリカ資料公開記念シンポジウム風景

平成28年5月10日、午後1時30分より、不言実行館1F アクティブホールにて、松浦コレクション（西アフリカの仮面・彫像資料）の寄贈・公開を記念したシンポジウムを開催した。シンポジウムのテーマは「アフリカへのまなざし・・・広大な自然と多彩な文化」であった。

アフリカの広大な地域と自然、多数の民族と多彩な暮らしを中心に中部大学に関わる7名の研究者がアフリカの現状と変遷、都市と村落、生産と生業、文化と文明などの特定の



学問分野だけでは対応しがたい多義で複雑な課題にたいし、最新の学術成果や知見を紹介することであった。

講演の前に和崎民族資料博物館長からシンポジウムの趣旨があり、次に飯吉中部大学理事長からご祝辞をいただいた。

シンポジウムに入り、松浦コレクションの収集者であり、中部大学の学事顧問である松浦晃一郎先生から基調講演をいただいた。松浦先生は、前ユネスコ事務局長として、世界遺産条約づくり、あるいは外交官としての豊富な経験などから、アフリカの政治、経済や生業から見える仮面・彫刻や音楽などの有形・無形の文化遺産について有意義で示唆にとんだお話をいただいた。次に、パネルディスカッションとして中部大学の青木澄夫、大橋岳、佐藤尚子、古澤礼太、嶋田義仁の諸先生からアフリカにおける日本との交流、自然と生態、コーヒー栽培と生業、西アフリカ王国文化、アフロ・ユーラシア内陸乾燥地域文明など多彩で多様な文化の研究発表がおこなわれ、最後にまとめとして和崎春日館長から宗教、王政、生産、職人などの視点での課題や今後の研究の展開および総括がおこなわれた。諸先生の熱弁は時の経過を忘れるものであり、質疑応答を含めると時間をオーバーしてしまっただが、多くの参加者が席をたたない有意義なシンポジウムであった。大学博物館の役割は、資料を展示することだけでなく、資料から新たな学術情報を生み出すこと、多面的な学術情報を広く社会に発信することだと考える。その意味においても、今回のシンポジウムはこれからの博物館の方向を考えるとともに、新たな展開に発展させるうえでも重要な行事となったと考える。なお、現在、シンポジウム報告書を取りまとめ中であることを申し添えて、簡単な報告とする。(宇治谷)

担当：宇治谷 恵（民族資料博物館）

催事名：夏季企画展示「エジプトの沙漠からオロンテス河畔まで 中部大学の教員が関わるエジプト、シリアにおける考古学調査」関連ギャラリートーク

(第1回)

テーマ：「テル・マストゥーマ遺跡の発掘調査を中心にシリアでの考古学調査について」

講師：西山伸一（人文学部共通教育科准教授・民族資料博物館運営委員）

日時：2016年7月12日（火）

(第2回)

テーマ：「アル・ザヤーン神殿の発掘調査を中心にエジプトでの考古学調査について」

講師：中野智章（国際関係学部教授・民族資料博物館運営委員）

日時：2016年8月2日（火）

会場：民族資料博物館 シルクロード室

参加者：75人（2回合計）



第1回ギャラリートーク風景



第2回ギャラリートーク風景

ギャラリートークの第1回目は、展示のシリア地域を企画担当した西山委員が、現地での考古学調査の様子を、写真パネルやシリア遺物をもとに解説しました。現在は内戦が続く地域ですが、人びとが農耕の発祥の地とされるメソポタミア文明を継承する文化を育み、家族制度を通じて力強く生活している姿についてもお話いただき、参加者はひととき時空を超えて歴史の空気に触れることができました。

ギャラリートーク第2回目は、展示のエジプト地域を企画担当した中野委員が、現地の考古学調査の様子を、調査活動を記録したポスターや古代オリエント博物館所蔵の一般的なエジプト遺物をもとに解説しました。調査では、考古学者のほかに、工学系レーザー探

査の専門研究者や現地の研究者といった文系理系の研究者が大規模に共同研究グループを組み、日中は50度にも達する熱砂の厳しい自然環境のなかで協力して調査活動をすすめられた様子を詳しくお話いただきました。

いわゆる「アラブの春」以降、現地に赴いて行う研究活動が難しくなった状況にあるとのことですが、いずれ再開される日が訪れ、新たな発見がこれからももたらされ、私たちに多くの歴史の魅力を届けられていくことを願ってやみません。(記録 博物館 原田)

## ・講座

催事名：「平成28年度 特別講座（古典絵画）」

期間：2016年4月20日～2017年1月18日 通年：計26回（16人）有料・定員制

講師：下川辰彦（日本美術院特待・民族資料博物館 外部専門委員）

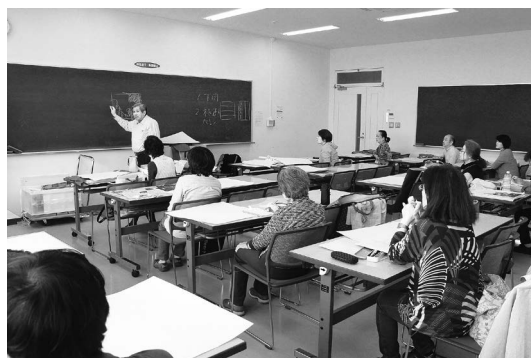
本講座は、開館年度から、日本画の作品制作という実技を通じて伝統文化の素材や技法を体験し理解する生涯学習プログラムの実践の場として開講してまいりました。近年は、日本画の制作を長年継続して行っている経験者を主な対象とさせていただいています。それは、当館が大学博物館ならではの特色として、専門的な大学教育の一端を一般対象に普

及する、独自の生涯学習プログラムの実践を目指してきたことに関連します。

そのための取り組みとして、昨年度からは、かつて半期毎に区切っていた講座を通年制にきりかえることで、一人ひとりがじっくりと作品制作に取り組むことができる状況に変更しました。その分、当然受講生は年間を通した自身の制作計画を練り、実際に自発的に進行していき、年度の最終段階では作品を完成の域にあげていくという、これまで以上に個々の制作意欲が形となって問われることとなります。自ずと講座全体には、良い意味での緊張感がみなぎっていきます。

そのような問題意識を受講生から引き出し、展示までの段階にもっていくよう博物館はエールを送り並走する面持ちで、支援していきたいと思っております。

また、当館の学習テーマの軸の一つであります「素材研究」の観点から制作過程について、映像で少しずつ記録しています。本講座における古典絵画という伝統技法の素晴らしさを再認識するため、視覚資料を近い将来に参考教材として提供できるよう、努力していきたいと考えています。(下川) (原田)  
担当：原田千夏子 (民族資料博物館)



特別講座風景

#### 中部大学民族資料博物館企画 特別講座 (古典絵画) より

当館における一般対象の実技講座「特別講座 (古典絵画)」は、おかげさまをもちまして開館とともに毎年開講を続けています。この経過のなかで、講座受講生で外部機関の公募展に出品し受賞された方からお知らせを随時受けてきました。ここに記し報告させていただきます。

加藤 あずさ さん

《ひまわり》 平成 26 年度「春日井市美術協会展」日本画部門 市長賞受賞

小笠原 孝 さん

《ひまわり》 平成 27 年度「第 64 回春日井市民美術展覧展」財団理事長賞受賞

小島 亜弥子 さん

《道》平成 28 年度「第 35 回 可児市美術展」日本画部門 市美術展賞受賞

(※順不同)

作品制作を通じた向き合い方は人それぞれと思いますが、本講座を通じて実技の魅力を感じ取られた意識が、別のかたちで再認識することができる機会として、当館としましても嬉しく、こうした生涯学習への取り組みよりよいものに発展していくための励みとさせていただきます (H)。

【平成 28 年度 特別講座（古典絵画）中部大学民族資料博物館アンケート 集計結果】

ゴシック=回答

回収数 16 人／受講生 16 人

このたびは、当館の特別講座を受講いただきまして誠にありがとうございました。

皆様の声を今後の参考にさせていただきますので、以下のアンケートにご協力をお願い申し上げます。

1 講座全体について感想をおきかせください。

① 大変関心を深めた                      ② 普通                      ③ あまり関心が持てなかった

① 14 人

② 1 人

③ 0 人

2 講座の内容でどのような点に関心を持ちましたか、具体的に教えてください。

- ・一つ一つの技法に奥深さを感じた。作業を進めるうちに「そうか」と思うことが多かった。
- ・下図から仕上がりまでの全般
- ・模写はきちんと正確に描くこと。
- ・絵に失敗はなく、修正する方法もいろいろあって最後まで完成していくプロセスを学べてよかった。
- ・板目を使って作品を作った事。技法も興味深かったが、同じ板目で十人十色の作

品が出来たこと。

- ・造形芸術とは…考えさせられ、大変勉強になりました。
- ・絹江の裏彩色やパネルの盛り上げ胡粉。
- ・銀箔の前に盛り上げをほどこした後、箔を貼り、こすって画面を作る。あるいは、木目を紙面にこすりつけてマチエールにする等、はじめてのことばかりでとても興味深かったです。
- ・伝統的な技法、画材等も御指導いただくこと。
- ・構図の勉強。岩絵具の使い方、マチエール等。
- ・日本画の奥の深さ、絵の具の美しさ、構図の取り方。
- ・色々な技法（もみ紙、木目）。先生の一筆で動き、遠近感が出ること。
- ・紙に板目をつけて、それを模様や絵の構図、背景にしながら絵画に仕上げていく技法を知り、さまざまな表現方法があることに興味を持ちました。
- ・日本画の画材の使い方。絵を描くときのモチーフの捉え方、考え方。

3 講師の指導について、いかがでしたか。

- ① 満足した                      ②普通                      ③いまひとつ

- ① 15 人  
② 0 人  
③ 0 人

4 講師のどのような指導が良いと思われましたか。

- ・作品完成までの課題解決的指導が後になっておもしろく感じた。
- ・個々への対応
- ・生徒の特徴を知って指導して下さること。
- ・丁寧にすることが大切とよく言われました。雑にすると必ずそれが作品に表れてしまうということを実感しました。
- ・各自にご配慮いただいて、どの作品も立派に描けていること。さまざまな技法とアイデア！
- ・知識、技術の多さにいつも驚かされます。
- ・受講生それぞれに合った作品制作の技法と御指導くださり自分以外の方の分も勉強させて頂きました。  
失敗しても必ず助け舟を出していただけるので有難かった。
- ・それぞれの個性にあわせて、丁寧に指導して頂きました。

- ・各自異なる作品（に対して）指導されること。描画技法をご自身で手本を見せられること。
  - ・一人一人へ気遣いしてご指導くださるところ。
  - ・親切に、丁寧に何度も指導していただきました。色々な技法を惜しみなくお教えいただきましたが理解できない部分も多いですが次回からはしっかり学びたいと思います。よろしくお願いします。
  - ・全体をみながら色を置く様に。胡粉の使い方。
  - ・絵の具と膠の溶き方。さまざまな場面での筆使いなどが見ることができ、参考になりました。
- 貴重な絵の具をわけていただきありがとうございました。
- ・どんなときも適切な御指導。勉強になります。
  - ・丁寧に技術を教えていただけること。絵の考え方、捉え方を教えていただいたこと。

5 事務的な連絡手続き等で、困った点やお気づきの点がありましたら教えてください。

- ・親切に対応していただけた。
- ・特にありません。
- ・最近、駐車場が混雑しています。
- ・行き届いたお世話をいただき感謝申し上げます。
- ・丁寧に連絡していただき、ありがとうございました。
- ・何事にもきちんとして困ることはないです。学生の方もお手伝いをありがとうございました。

6 今後、これに類した講座を開催する場合、受講を希望しますか。

- ①受講する                      ②わからない                      ③受講しない

- ① 15人  
② 0人  
③ 0人

7 今後、希望される講座内容や、また改善を望まれる点など当館へのご意見・ご要望をお聞かせください。

- ・初めての日本画作品完成の達成感と共に、もっと学びたいという欲求が出てきた

ので、このまま続けていただきたい。

- ・自動車でない者にとって荷物をもってくるのも一苦勞。少しでも備品があるととても嬉しく感じる。
- ・引き続きよろしくお願いします。
- ・特別講座の内容はきちんと説明いただきありがとうございます。
- ・またぜひ日本画の講座を続けてほしいです。そしてさらに日本画の良さや理解を深めていきたいと思います。
- ・スケッチ旅行（構内でもよいので外で）
- ・博物館の衣装や民具をモデルにデッサンをする会（個人的に写させていただくことは可能でしょうか？）
- ・基礎と応用があると思うのですが、それぞれ個人に対応して教えていただいているなかで、基礎で繰り返す部分と、各自の作品に応用していく部分と（双方がある）があるので、原点に戻れて嬉しい。

～ご協力ありがとうございました。

## 出版事業

- 中部大学民族資料博物館「2015年度 年次報告 第5号」(6月)
- 中部大学民族資料博物館「2015 企画展示等記録」(6月)
- 中部大学民族資料博物館「2015 連続講演記録」(5月)
- 中部大学民族資料博物館「ニュースレター 10号」(5月)
- 中部大学民族資料博物館「ニュースレター 11号」(10月)
- 「中部大学民族資料博物館企画 平成28年度特別講座(古典絵画)受講生作品発表展示  
／制作記録」(3月)



## 資料収集・保存等

次の平成 28 年度分の受入資料について学園へ報告した（1 月）。

寄贈資料

計 111 点

内訳

- ・民族資料 110 点（個人）
- ・民族衣装 1 組（2 点一式）（個人）

資料修復・資料保存等

パプア・ニューギニアの石斧（一部・籐の仮補強）

## 調査研究活動

<宇治谷 恵>

(展示)

催事名：アフリカ資料公開展示／記念式典・公開記念シンポジウム

主催者名：中部大学民族資料博物館

日時：5月10日

場所：中部大学民族資料博物館 常設展示・不言実行館1階アクティブホール

内容：展示・講演の企画構成、展示指導

(その他)

催事名：平成28年度全国大学博物館学協議会西日本部会

日時：2016年12月9日～10日

場所：京都外国語大学

対象：加盟大学53校参加（博物館学担当教員、教務課系担当職員など）

<原田 千夏子>

(論文)

「庭園と絵画のデザイン — 雪舟作品の〈図面化〉による分析試論」

（「形の文化研究 9号」形の文化会、2016年3月31日）

(論考)

「特別講座（古典絵画）の意義、および制作記録」

（「中部大学民族資料博物館企画 平成28年度特別講座〔古典絵画〕受講生作品発表展示／制作記録 日本画 絹絵 板絵」1～12頁、中部大学民族資料博物館、2017年3月）

(解説)

「日本の伝統的な絵画表現の特徴について

《源氏物語絵巻（現状再現模写）》と彩色（顔料、染料）を中心に」

（2016年11月11日 CAAC 講座内 於 中部大学）

(見学資料作成)

「愛知県高等学校音楽教員研究会」配布用

（2016年11月30日 民族楽器紹介）

(研修)

研修名：平成28年度 文化財 IPM 実践のための研修会

主催者名：公益財団法人文化財虫菌害研究所

期間：11月17～18日

場所：新宿歴史博物館

研修名：平成28年度愛知県博物館協会部門研修会

主催者名：愛知県博物館協会

日時：平成28年3月8日

場所：豊田市博物館

## 教育普及に関する活動

生涯学習の企画および実践

4月～1月 特別講座（古典絵画）の開講（通年・一般有料・定員制16名・連続26回）

目的：大学博物館における素材研究を通じて、生涯学習の教育普及。

日本画（絹絵・板絵・日本画）の実技制作を通じて伝統的な天然材料や技法について大学の専門性の高い学習内容を一般へ体験をもとに教育的に普及する。

その他の教育普及活動

CAAC 連続講座授業内グループ見学

会場：民族資料博物館 シルクロード室、図書館 セミナールーム

日時：2016年11月11日（金）

参加者：19人

本学の地域連携シニア大学（CAAC）のキャリアラムの一つ、連続講座「旅と文学」の授業において、古典文学の「源氏物語」を教材に取り上げられることから、博物館で以前に紹介した大学資料《源氏物語絵巻》柏木（三）（徳川美術館本）の模写作品についての解説依頼があり対応した。この模写作品は、本学と愛知県立芸術大学の日本画専攻との共同研究成果の一作で、愛知県立芸術大学の文化財保存活動における、模写を専門に研究制作する模写班スタッフによって制作されたもので、古典絵画の伝統的な技法と現在の画家の創意工夫が込められた完成度の高い作品である。平安時代後期に確立されていった当時の絵画材料により近づけた技術を駆使し、天然の顔料や染料の彩色表現を忠実に再現する貴重な資料といえる。ふだんは常設していないために、今回の授業見学では特別公開として披露した。



CAAC 授業見学風景

当館では、「シルクロード」と「素材研究」を学習テーマに提案して活動する中で、シルクロードを経由して日本に伝播した絵画技法が、千年にわたって現在の日本画として継承されている経過を、天然顔料や染料の表現効果の美しさを紹介する企画催事を行っている。

今回の見学では、これまでに博物館で制作した関連の視覚教材と、県立芸術大学との共

同研究成果作品のその他の2点、《扇面古写経絵図（模写）》と《平治物語絵巻（模写）》も公開した。現物作品に近い状態を間近で鑑賞できることで、模写とはいえ、天然顔料のもつ美しい色合いをもとに発展してきた日本の色彩の独特の美を体験することができる。参加者の多くが（博物館既設の）ルーペを手に、古典絵画の筆線や彩色を見て驚きの声をあげていた。こうした大学博物館における試みが、日常で馴染みの少なくなった伝統文化の再考の契機となり、若い大学生からシニア世代まで年齢を問うことなく、再発見しつつ学び続ける生涯学習の場を提案していきたい。

見学の後半には、場所を移し、日本において国風文化が確立していった時代様式の概要と、その一つである平安絵画をとりまく当時の社会背景や時代の特徴と美意識の発達との関係性について解説を加えた。さらに、日本美術の保存と普及に尽力し、文化財保存のために海外との協力支援活動に貢献した芸術家や研究者の活動についても触れ、当館のシルクロード室に常設している絵画作品もその一端である点を触れた。（原田）

担当：原田千夏子（民族資料博物館）

愛知県高等学校音楽教員研究会内 見学

会場：民族資料博物館 シルクロード室、図書館セミナールーム

日時：2016年11月30日（水）

参加者：30人

愛知県内の高校における音楽担当教員の研修会のなかで、当館の展示室における見学が行われた。はじめに、中国琵琶奏者で国際学科の宗婷婷講師が中国の古楽器の音色が身体に与えるさまざまな影響について講義し、博物館では民族楽器に関する収蔵資料の展示情報と概要を資料にして配布した。

後半は、博物館内にこの見学用に特設した民族楽器の展示コーナーを主体として見学の時間となった。自然素材を用いた各国の楽器、例えば、動物の骨でできたペルーの縦笛、水牛の角でできたホルンのような中南米の角笛、ひょうたんを共鳴具にしたアフリカの木琴、かんびょうの実を用いた中央アジアの弦楽器など、珍しい形態や素材からなるそれぞれの楽器の構造に対する関心がより高いようだった。一部の展示



音楽教員研究会 講話風景



音楽教員研究会 見学風景

資料は手に触れることができるようにケースから出して陳列したため、手のひらや指先で独特の感触を感じ取ることができる点は当館ならではの鑑賞手段としている。

見学の最後には、宗婷婷講師が中国琵琶を実演し、民族楽器の繊細で叙情豊かな音色を披露した。(原田)

担当：原田千夏子（民族資料博物館）

#### 博物館資料の活用

7月23日 コモンズセンター企画による展示と体験のため民族衣装と楽器の貸出

11月12日 国際関係学部 高大連携 民族衣装ファッションショーのため民族衣装の貸出

催事名：コモンズ企画「Sunnyside Plaza」

会場：不言実行館 2F スチューデント・コモンズ

日時：2016年7月23日（土）

担当：平井 芽阿里（全学総合教育科講師／コモンズコンシェルジュ）

#### 「コモンズ企画

異文化を通じた他学部交流のイベントにおける民族資料の活用について」

その日、普段は話し声で賑わうスチューデント・コモンズに、多国籍な音色が響き渡っていました。さまざまな国の楽器を不思議そうに眺めながら、触れたり叩いたり楽しそうに音を確認する学生たち。

7月23日、不言実行館2階のスチューデント・コモンズのステージエリアで、国際文化学科3年の沼田恵美さんが代表となって企画した「Sunnyside Plaza」が開催されました。



コモンズセンター

コモンズセンターには、コモンズ企画という、コモンズセンターを拠点とし学部学生の人間力向上を目的に、学生が主体となって実施する企画があります。沼田さんは記念すべき初の応募者で、コモンズサポーターである小坂真生さん、藁科友理さん（いずれも国際文化学科3年）と協力しながら、立案、実行、運営にいたる全てを自ら執り行いました。

「Sunnyside Plaza」は、国際関係学部だけでなく他学部の学生にも、異文化交流を

通した誰でもが参加しやすい新しい国際交流の形をコモンズセンターで作ることで、より多くの学生に異文化理解を深めてもらうことを目的に企画されました。企画書を何度も練り、形にまとめ、いざ実行するとなると、当初は計画に入れていた留学生が参加できず、どのように異文化交流を行うのか、という課題にぶつかりました。

何よりの強い味方となってくれたのが、民族資料博物館でした。民族資料博物館に相談に行くと、なんと民族衣装 10 着に民族楽器 5 点という、大変貴重な展示物を貸していただけることになったのです。企画を行う前日、不言実行館まで慎重に搬入し、ひとつひとつ丁寧に展示すると、スチューデント・コモンズは見事に彩られました。

当日は、20 人を超す学生が集まり、手作りのパネルで紹介された世界遺産をスタンプラリーで巡り、演奏会を行い、マサテコ族の民族衣装にも身を包みました。

異文化交流に欠かせない鮮やかな魅力を添えていただけたおかげで、企画は大成功に終わりました。担当コンシェルジュからも心より御礼を申し上げます。(平井)

## 広報活動

### 取材

- 5月9日 中部大学放送研究会「チューテレ」アフリカ資料公開式典（5月11日放映）  
5月10日 CC ネット「Cステーション」アフリカ資料公開式典 取材（5月23日放映）  
5月10日 CBC （5月11日放映）

5月11日 毎日新聞（アフリカ資料公開式典）

「アフリカ学ぶきっかけに 仮面や彫像など民族資料 110点

松浦晃一郎氏 中部大に寄贈 公開へ」

5月11日 読売新聞（アフリカ資料公開式典）

「アフリカの造型 楽しんで 元駐在大使松浦さん 中部大で収集品公開」

5月13日 中日新聞（アフリカ資料公開式典）

「アフリカ民芸品 109点寄贈 元国連職員・松浦さん 中部大の博物館に」

5月17日 朝日新聞（アフリカ資料公開式典）

「収集半世紀 アフリカ体感 松浦ユネスコ前事務局長 中部大に仮面など寄贈」

「夏休みサイエンスコミュニケーション・ネットワーク」WEB 広報ページ

(<http://aichi-science.jp/event/detail.html>) 7~8月の催事掲載

7月1日 「広報春日井 7月1日号」6頁

交通対策課「はあとふるライナーに乗って自由研究に出掛けよう」

（「世界の人たちの“暮らし”を調べてみよう」）中部大学民族資料博物館

雑誌「名古屋港」207号（11月20日発行予定）名古屋港管理組合

1月10日 ケーブルテレビ放映「アフロ・ユーラシア 内陸乾燥地文明展」

（12月22日 ケーブルテレビ「Cステーション」取材）

### 大学広報等

「中部大学 2017 大学案内」民族資料博物館

「CHUBU UNIVERSITY CAMPUS LIFE 2016」民族資料博物館

「学校法人 中部大学 学園報」第 506 号 2016 (平成 28) 5.20  
(平成 26・27 年度合同特別講座受講生作品発表展示) 記録

「学校法人 中部大学 学園報」第 507 号 2016 (平成 28) 6.20  
(アフリカ資料「松浦コレクション」公開記念式典・公開記念シンポジウム) 記録

「ANTENNA No.133」2016 年 7 月  
「民族資料博物館「松浦コレクション」のもつ意義—日本におけるアフリカ研究の中心へ—  
中部大学 民族資料博物館長 国際学科 教授 和崎春日

「中部大学通信 ウプト wpwt」July.2016. No.199  
「CAMPUS NEWS」(松浦コレクション公開記念式典・記念シンポジウム)

「信頼」(中部大学後援会会報) 第 62 号 2016 (平成 28) 8 月 1 日

「学校法人 中部大学 学園報」第 509 号 2016 (平成 28) 9.20  
民族資料博物館 2016 夏季企画展示  
「エジプトの沙漠からオロンテス河畔まで  
中部大学の教員が関わるエジプト、シリアにおける考古学調査」開催記録  
(ギャラリートーク第一回目)  
「テル・マストゥーマ遺跡の発掘調査を中心にシリアでの考古学調査について」開催記録  
(ギャラリートーク第二回目)  
「アル・ザヤーン神殿の発掘調査を中心にエジプトでの考古学調査について」開催記録

「中部大学同窓会誌 桃園の夢 Vol.65」中部大学同窓会 2016 年 10 月 1 日  
「中部大学民族資料博物館」

「学校法人 中部大学 学園報」第 512 号 2016 (平成 28) 12.20  
「2016 世界を繋ぐ国際ファッションショー」開催記録

「学校法人 中部大学 学園報」第 513 号 2017 (平成 29) 1.20  
2016 期間展示  
「アフロ・ユーラシア 内陸乾燥地文明展 黒アフリカ・イスラーム文明から考える」  
開催記録



#### 画像掲載

「こころ 35号」平凡社 2017年2月25日発行、23頁

(「バーミヤン西大仏龕の天井画 模写(菩薩と天人たち)」中部大学民族資料博物館蔵)

#### その他(学外の催事案内)

「おでかけガイド 愛知の博物館」2016.04～2016.09 (愛知県博物館協会)

「おでかけガイド 愛知の博物館」2016.10～2017.03 (愛知県博物館協会)

平成28年度 中部大学民族資料博物館 展示・催事一覧

期間	名称	料金	参加者数	内容	主催/共催	備考
----	----	----	------	----	-------	----

◇講演

5月10日	アフリカ資料公開記念 シンポジウム	無料	248	松浦晃一郎 (学校法人中部大学 学事顧問)	主催	
-------	-------------------	----	-----	-----------------------	----	--

◇企画展示 (多目的室等)

3月23日～4月7日	平成26年度・平成27年度合同 特別講座受講生作品発表展示	無料	257	当館主催の一般科藝有科講座の受講生による日本美術制作作品の成果発表	主催	
7月10日～8月9日	夏季企画展示「エジプトの砂漠からオロンテス湖畔まで 中部大学の教員がかかわるエジプト、シリアにおける考古学調査期間展示「アフロ・ユウラシア内陸乾燥地文明展 黒アフリカ・イスラーム文明から考える」	無料	871	エジプトやシリアにおける調査の様子や出土品を展示	主催	
12月5日～3月8日		無料	767		共催	

◇常設展示利用

7月12日	夏季企画展示ギャラリートーク1回目	無料	30	西山伸一氏 (中部大学人文学部准教授) による展示紹介 (シリア)	主催	
8月2日	夏季企画展示ギャラリートーク2回目	無料	45	中野智章氏 (国際関係学部教授) による展示紹介 (エジプト)	主催	
7月9日、8月5日～7日	鑑賞見学「夏のオープンキャンパス 国際関係学部の衣装案内」		62	鑑賞・体験見学	協力	国際関係学部

◇実技講座、ワークショップその他

4月20日～1月15日	特別講座 (古典絵画) 連続26回 通年・定員制	有料	16(延べ416)	日本画の実技制作、材料研究・美術史	主催	継続6年目
4月7日	特別講座受講生発表展示 講評会	無料	22	日本画 (絹絵、板絵、日本画作品)	主催	毎年継続
11月12日	2016世界を繋ぐ国際ファッションショー	無料	約100	収蔵資料の民族衣装を活用	共催	国際関係学部、中部第一高等学校

計 2,418 (延べ2,818)

中部大学民族資料博物館年報 第6号 2016

平成 29 年 12 月 1 日印刷

平成 29 年 12 月 1 日発行

編集・発行 中部大学民族資料博物館

〒487-8501

愛知県春日井市松本町 1200 番地（附属三浦記念図書館 2 階）

T E L 0568-51-9193（直通）

F A X 0568-51-9194

印 刷 不二印刷工業株式会社

